

いわて復興だより

がんばろう！岩手 つなごろう！岩手

三陸復興

第70号

平成26年9月1日号

復興に向けて歩み続ける岩手県の今を紹介します

平成23年3月11日に発生した東日本大震災津波。発災以来、全国そして海外からも多くの温かい励ましや御支援をいただいております。心から感謝申し上げます、この「つなごろう」を大切にしていきたいと思っております。

岩手県の夏も終わりに近づき、虫の音にも季節の移り変わりを感じる今日この頃。

復興に向けて歩み続ける岩手の明るい今を紹介します。

東京都認定“ヘブンアーティスト”が沿岸各地でパフォーマンスを披露

大船渡市・釜石市
大槌町・宮古市

東京都とヘブンアーティスト運営実行委員会が主催する「岩手大道芸イベント」が、8月22日（金）から8月24日（日）の間、大船渡市、釜石市、大槌町、宮古市で開催されました。

このイベントは、東京都が芸術文化を活用した被災地支援事業として平成23年より宮城県、岩手県、福島県で開催しているものです。

沿岸各地を訪れたのは、東京都認定のライセンスを持つ「ヘブンアーティスト」と呼ばれる大道芸人やパフォーマー、音楽奏者ら4組で、ジャグリングなどの様々なパフォーマンスが披露されました。

8月23日（土）、釜石市の「シープラザ遊」で行われたイベントには、地元の人たち約50人が集まり、次々と繰り広げられる曲芸や音楽を楽しみました。

公演後、子どもたちは「ヘブンアーティスト」からの指導を受けながら、ジャグリングやディアボロなどに挑戦し、笑顔を見せていました。

ヘブンアーティスト運営実行委員会の橋本隆雄さんは「震災後、釜石を訪れた時に比べ、皆さんの顔も少しずつ明るくなっている。これからも毎年、皆さんが元気になるまで岩手に通いたい。」と想いを語ってくれました。



パフォーマンスに参加する子どもたち；釜石市



ジャグリングを披露する出演者；釜石市



ディアボロを体験する子どもたち；釜石市



ジャズ演奏を披露する出演者；宮古市

「いわて復興インデックス報告書（第11回）」のデータから

沿岸被災12市町村を中心とした本県の復旧、復興の現状やその推移を把握するためのデータを定期的に取りまとめている「いわて復興インデックス報告書」。

今回は、第11回（平成26年8月28日公表）結果から、主なデータを紹介します。

安全

沿岸部の津波防災施設の整備率（平成26年3月末時点）

整備率 26.7%・整備済総延長 19.0km

（平成25年3月末時点 25.4%・整備済総延長 18.1km）

前年3月末と比較して、プラス0.9kmとなっている。津波防災施設の整備済総延長は19.0kmであり、要整備区間総延長71.3kmに対する整備率は26.7%。

暮らし

沿岸部の応急仮設住宅入居戸数（平成26年7月末時点）

応急仮設住宅入居戸数：11,054戸

（平成23年12月時点：13,218戸（ピーク時））

ピーク時と比較すると、16.4%減。前回データ（平成26年4月末時点：11,464戸）と比較すると410戸減となっている。

なりわい（産業）

産地魚市場水揚量（平成26年4月～6月）

産地魚市場水揚量（年度累計）14,799トン71.0%（3年平均比）
（平成25年4月～6月：18,110トン・86.1%（3年平均比））

平成20年度から22年度までの3年間の同期間における産地魚市場水揚量の平均値の71.0%となっており、前年同期比では18.3%減となっている。



「e!いわて（いわてつながり情報局）」は、復興に関連する岩手のニュースや情報を知ることのできるアプリです。

入手した情報はTwitterやFacebookに投稿しシェアすることができます。

以下のOSを搭載したスマートフォンでご利用いただけます。

・Android OS4.0以降、iOS6.0以降

詳しくは

いわてつながり情報局

検索



「もぐらんぴあ・まちなか水族館」

入館者 20 万人達成！ 久慈市

8月12日(火)、久慈市街地に移転し営業を続けている「もぐらんぴあ・まちなか水族館」の入館者が20万人を達成しました。

同市侍浜町にあった久慈地下水族科学館「もぐらんぴあ」は、東日本大震災津波で全壊し、被災から5ヶ月後、久慈駅前の空き店舗を利用し「まちなか水族館」としてオープンしてきたところです。

移転後、20万人目の入館者は、ニュージーランド在住のマコーリー・エイミさん(10)。家族旅行で来日し、久慈市の母の実家を訪れた際に、来館したそうです。

同水族館は、震災前から応援してくれているさかなクン(東京海洋大客員准教授)から提供された生物などを展示するコーナーを常設し、久慈駅前の観光スポットとして人気を集めています。

市によると、再建される「地下水族科学館もぐらんぴあ」は、9月上旬の着工予定で、防災機能を備えた水族館として来年7月の完成を目指しています。

「写真提供：もぐらんぴあ・まちなか水族館」



20万人目の来館者



もぐらんぴあキャラクターの「もぐちゃん」



大型水槽を覗き込む子どもたち



もぐらんぴあ・まちなか水族館

被災地・三陸の復興へ向け、多くの若者が情熱を注いでいます。連載「未来のさんりくびと」では、毎号、復興への熱い想いを秘めた若者を紹介していきます。

第24回目は、大久保彩乃さんを紹介します。

PROFILE

大槌町出身。高校卒業後2年間、東京で美容について学んだ後、大槌に戻る。開業を目指していた矢先に、東日本大震災津波により被災。平成23年12月より、岡山県に本部がある医療NGO団体のアムダが開所したAMDA大槌健康サポートセンターに勤務、現在に至る。

体を動かすだけでなく、内面から健康をサポートしたい

AMDA大槌健康サポートセンターは、大規模な被災を受けた大槌町に、町民が隔たりなく集まれる場所を提供しようとの主旨で作られた施設です。

主な活動は、手芸教室や体操、パン教室、ボクササイズで、地域のコミュニティーの場とし

未来のさんりくびと

認定 特定非営利活動法人 アムダ
AMDA 大槌健康サポートセンター
プロジェクトオフィサー
大久保 彩乃
(おおくぼ あやの) さん



大久保さんからのひと言：
赤ちゃんから高齢者まで皆が笑顔になれる場所

て親しまれています。

「体を動かすことだけが健康ではないと思います。手を動かすことはヒーリングになって心が健康になるし、町民同志のみなさんが会話することも全てが健康に繋がると考えています。」と、大久保さんは内面からの健康のサポートが大切と考え、住民の方の笑顔があふれるコミュニティスペースづくりを目指しています。

若者の意見を取り入れたまちづくりを

大槌町の復興について大久保さんは「家を建てたくても建てられないという人がまだまだいらっしゃいます。公営住宅が建っても、隣の音が気になるという人もいますし、仮設住宅から公営住宅に移れても、ゴールではないと感じています。今後、このまちを背負っていくのは若者ですから、若い人たちの意見を聞いた上でのまちづくりが必要だと思います。私たちの世代が参加できる機会もまだ足りないと思いますので、どの世代も意見が出せて、参加できるといいのかなと思います。」と語ってくれました。

岩手県の被害状況

平成26年7月31日現在

- ▶人的被害 死者(直接死): 4,672名 行方不明者: 1,132名
- ▶建物被害(住家のみ、全半壊) 25,716棟

被害状況等の詳細

義援金・寄付金の募集等

[いわて防災情報ポータル](#)

[検索](#)

皆様のご支援、ありがとうございます

平成26年7月31日現在

- ▶義援金受付状況 約181億5,396万円(89,620件)
- ▶寄付金受付状況 約195億6,960万円(6,889件)
- ▶いわての学び希望基金受付状況 約69億3,561万円(13,810件)

※被災した子どもたちが勉強やスポーツ等に励めるよう「くらし」「まなび」の支援に使われます。

ビジュアル豊富な【いわて復興だより Web】もご覧ください!!

<http://iwate-fukkoudayori.com>

いわて復興だより 第70号 平成26年9月1日号

企画・発行：岩手県復興局復興推進課

☎019-629-6925

いわて復興だよりバックナンバーは

[いわて復興だより](#)

[検索](#)

編集・印刷：シナプス